

X 帯サブ・ワーキング・グループにおける検討状況

第4回作業班への報告事項

1. 第2回作業班 (H29. 12. 21) における検討状況

- (1) 第2回作業班までの間に、X 帯サブ・ワーキング・グループを計3回開催することを予定していたが、資料の作成等が不十分であったため、2回のみ開催。
- (2) このような状況を踏まえ、「X 帯気象レーダーの現状と今後の展開」「共用検討の X 帯気象レーダーの諸元」を第3回の作業班に提出することを目指し、今後の作業を加速化する。

2. 第4回作業班 (H30. 4. 19) に向けた報告事項案

- (1) 「X 帯気象レーダーの現状と今後の展開」と「共用検討の X 帯気象レーダーの諸元」を次回以降の作業班に提出するため、引き続き作業を進める。
- (2) これらの作業の一環として、X 帯サブ・ワーキング・グループでは、
 - ① 共用システム（船舶レーダー、航空機レーダー、衛星放送受信設備）からの要求条件への対応
 - ② 気象情報のユーザーからの要望の把握と整理
 - ③ 9.4GHz 帯と 9.7GHz 帯の使い分けのあり方

に関する検討が重要であると考え、既に着手している。

- (3) このような状況を踏まえ、第4回作業班には、以下の方向で検討状況を報告することとし、今後、特に①の「共用システムからの要求条件への対応」に関して重点的に取り組んでいく。

① 共用システムからの要求条件への対応

以下の3つの共用システムからの具体的な要求条件を踏まえ、共用の可能性を検討する。

ア 船舶レーダー

- 船舶レーダーの干渉除去機能の維持
(パルス幅、PRF の時間変動)

イ 航空機レーダー

- 共用の条件
(運用条件、設置場所、スプリアスレベル、ガードバンド)

ウ 衛星放送受信設備

- 干渉試験の実施

② 気象情報のユーザーからの要望の把握と整理

空港、ヘリコプター、航空機、鉄道、道路管理等の分野において具体的な課題や気象レーダーによる定量的な効果を整理する。

③ 9.4GHz 帯と 9.7GHz 帯の使い分けのあり方

それぞれの共用条件等を考慮しつつ、中長期的な観点から効果的な使い分けのあり方を整理する。

また、資料 気レ作 4-2 (第3回 X 帯 SWG 資料 気レ X3-6) に「X 帯サブ・ワーキング・グループにおける共用検討の方向性」をまとめている。